

扁平化生を伴った幼児膀胱粘液腫の1例

京都大学医学部泌尿器科学教室

加 藤 篤 二

MYXOMA WITH SQUAMOUS METAPLASIA FOUND IN THE
INFANT BLADDER: REPORT OF A CASE

Tokuji Katō

From the Department of Urology, Faculty of Medicine, Kyōto University

An one-year-old girl was seen with dysuria, frequent urination and discharge of sand in urine. A tumor was found protruding from the external urethral orifice. Cystoscopy revealed several tumors in the trigone to bladder neck. Cystography showed shadow defect in the base of bladder. Cystotomy and resection of the tumors were performed, but the patient died probably of renal failure and infection. Histology disclosed myxoma with squamous metaplasia which had caused salt precipitation.

はじめに

膀胱粘液腫ははなはだまれな疾患で本邦ではわずかに数例の報告があるに過ぎない。それでここにその1例をあげて簡単な解説を試みたい。

症 例

患者：1才8カ月の女子

初診：1935年6月25日

主訴：排尿困難，頻尿，砂様物の排出。

個人歴：満期安産なるも発育遅延し歩行不能。

現症：1935年1月ごろより外尿道口部に微小な腫瘍を気づかれた。2月ごろには徐々に腫大して小指頭大となり，尿がそれをつたって失禁，落下し某医に焼灼手術を受けいったん治癒した。6月の初めより排尿にさいし前屈腹圧を加えないと出ないという。頻尿とともに軽い血尿をみる。ポリープとしてふたたび焼灼を受けたが症状は軽快せず，そのご排尿時に砂様のものの排出を認めている。

初診所見：体格，栄養ともに普通，貧血なく，腹部では，両腎を触れず，外陰部はビランし，外尿道口下縁に米粒大の暗赤色の腫瘍が突出し，腹圧により尿道内より上記の腫瘍が脱出し狭少な尿流が，その上部から流出するのを認める。腫瘍はやや硬く，指圧により内部に還納しうる。尿は軽く混濁し白血球(卅)，膀胱鏡検査で粘膜は一般に軽く充血し，正中線底部に小

指頭大の円形腫瘍1個あり，表面は透明で一部に白帯をふす。両側尿管口は不明で青排出は15分後もみられず，三角部より外尿道口下縁にかけて3～4個の同様な円形腫瘍がおのおの別個に接してみられ，たかだか小指頭大で表面平滑，いずれも基部をもち，一部に塩類の沈着をみる。小児科的には，精神発育は遅れ，いわゆる Imbezilität の診断を受けた。腫瘍の試験切片では粘液腫，または ödematös の Fibrom と診断された。レ線所見では，膀胱底部に著明な陰影欠損を認めた。術前7日前から高熱をきたし腎盂腎炎の疑いで治療し，下熱を待って7月9日膀胱高位切開を全麻のもとにおこなった。膀胱内は混濁尿が充滿し腫瘍は一つの茎に鈴なり状，あるいはブドウ状（大は小指頭大より小は米粒大）をなしていた。内尿道口の基部を広範に切除するにたお，内尿道内に5～6個の小腫瘍があるためにこれを切除，2個の結石破片も除去した。腫瘍は一般にやわらかく透明であるが一部は壊死状。手術後1日にして急に死去したがその原因は腎障害，感染と全麻の影響が考えられた。

病理所見：腫瘍上表の粘膜は扁平上皮で角層について数層の棘層よりなる (Fig. 1, 2)。粘膜に接する腫瘍部の細胞は粗に散在して，クロマチン濃染，円形で小さく核分裂はあまりみられぬ (Fig. 3, 4)。ところどころに2～3極の突起を呈する紡錘状細胞が見られる。粗なる網目状の結合組織束をはさんで透明の粘液変性が著明 (Fig. 5)。毛細血管の分布に乏しく，線維腫



Fig. 1

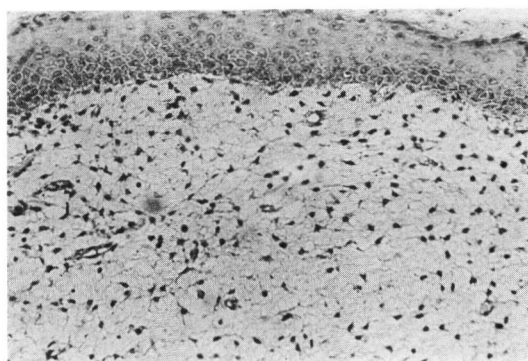


Fig. 2

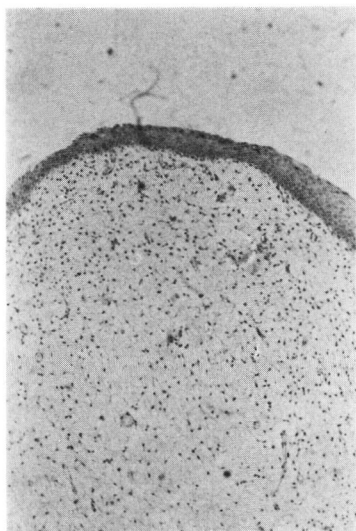


Fig. 3

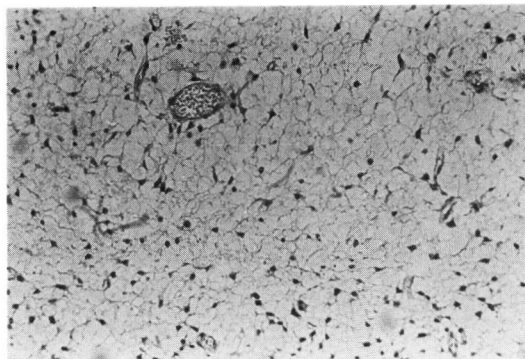


Fig. 4

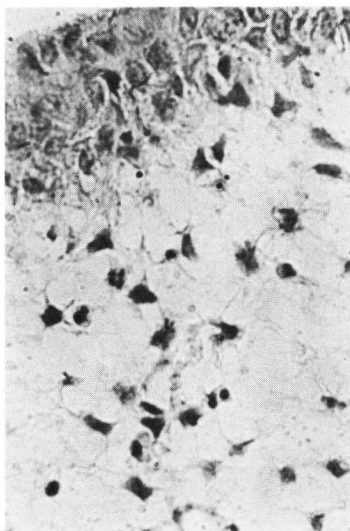


Fig. 5

の所見はみられず、以上真性粘液腫か仮生のものか判定に苦しむが筋肉腫等の粘液変性ではないようである。

ま と め

Virchow が胎児性の粘液線維よりなる腫瘍を粘液腫と命名して以来多数の報告があるが、泌尿系統に発するものは少なく本邦ではわずかに土屋博士がものされた1940年の体性紙上に世界文献を渉猟された大論文があるにすぎない。そのうち膀胱に発するものはなほは少ないようで、Joseph, Rumpel, Albarran 等によると小児に主として起こり、息肉状で膀胱頸部、三角部に好発、ブドウ状の透明な腫瘍でしばしば尿閉をきたし、切除後もすみやかに局所再発をしやすい、遠隔転移が少ないのに腎機能が障害さ

れ尿毒症を起こして予後不良となる症例が多いという。本邦の奥，福田，中野，百瀬，中野の症例はいずれもしかりである。一般に幼年者にみる粘液腫は多く粘液肉腫と解する意見が強いようである (Albarran, Fenwick)。ちなみにブドウ状肉腫とは線維肉腫，血管肉腫，筋肉腫に加えて粘液肉腫をも含む総称である。

以上外尿道から突出するポリープが何回かの焼灼にかかわらず再発したので膀胱高位切開の上に完全に切除したが経過あしく死亡した幼児膀胱粘液腫の1例を解説した。

文 献

- 1) Canard & Riverola : J. Urol., 69 : 272, 1953.
- 2) 福田：皮と泌，7：78，1939.
- 3) 百瀬・ほか：日泌尿会誌，45：353，1954.
- 4) 中野・日南田：日泌尿会誌，41：238，1950.
- 5) 奥：臨皮誌，3：45，1938.
- 6) 中野・捧：日泌尿会誌，48：848，1957.
- 7) Lazarus & Rosenthal : J. Urol., 27 : 695, 1932.
- 8) 土屋・神藤：体性，27：1064，1940.
- 9) 近藤・宮崎：泌尿紀要，42：562，1966.

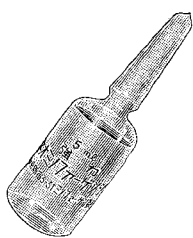
(1970年4月14日受付)

アレルギー疾患に

【文献進呈】

副作用のない，抗アレルギー・抗炎症・解毒・肝保護作用をもつ

健保略称
強ミノC



強力ネオミノファーゲンC

包装 2ml 10管・100管，5ml 5管・50管，20ml 5管・30管

健保薬価 2ml 27円，5ml 41円，20ml 144円

●内服療法には

副腎皮質ホルモン療法，とくにその長期療法に併用して，同剤の維持量を小量ならしめ，後療法に用いて再発・再燃を阻止し，同療法の終結を確実ならしめる



グリチロン錠

包装 30錠，100錠，1000錠，5000錠

健保薬価 1錠 3.50円

■適応症

感冒，気管支炎，喘息，肝炎，肝障害，腎炎，ネフローゼ，血管性紫斑病，白血球減少症，自家中毒，湿疹，皮膚炎，蕁麻疹，小児ストロフルス，神経痛，リウマチ，腰・背痛，妊娠中毒，特発性腎出血，急性出血性膀胱炎，中耳炎，副鼻腔炎，口内炎，フリクテン，結膜炎，角膜炎，薬物副作用，薬物過敏症など